

	<p>北海道ドレスメーカー学院 自己点検評価報告書 (平成28年度)</p>	
--	--	--

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

学校法人浅井学園
北海道ドレスメーカー学院
札幌市中央区南1条西22丁目1番1号

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	備考
		非常に良い・・・5 良　　い・・・4 適切である・・・3 課題がある・・・2 改善が必要・・・1		
1 教育 理念・目的・ 育成人材像等	【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか	5	現在は、建学の精神は学園の創立時と変わらないものの、その解釈については、男女共同参画時代になっており、「社会人として相応しい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」として学園内での共通理解とした	
	【1-2】学校における職業教育の特色は何か	5	<p>「実践」「現場」「地元」「体感」「成長」の5つを特色の基礎項目に掲げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 7月10日に裏参道祭りに合わせ、ドレメフェスティバルを開催。ファッションショー、ワークショップ、カフェを開設し、地域交流を図った。 2. 6月に恵庭市えこりん村にてバラ姫のパレード衣装の企画提案・制作を行い、発表した。 3. 10月1日に地下歩行空間にて ACF アートステージが開催され、ファッションショーに参加した。 4. 10月5～16日に大丸 Onward Green Campaign にて作品展示が行われた。 5. 10月7～8日にきたえーるにて手作りフェスティバルが開催され、ファッションショー及びワークショップを行った。 6. 10月15日に PASEO にて Creators Camp が開催され、ファッションショーを行った。 7. 10月19～31日に札幌三越にて、産学連携プロジェクトによって開発された商品が販売され、販売実習及びワークショップを行った。 8. 12月18日にペニーレーン24にて EverZOne のライブが開催された。その際のライブ衣装の企画・制作を行った。 9. 2月4日の「:Dcreation×Mode collection」にて、GANON フローリストと創作花デモンストラーションを行い、連携を図った。 <p>以上の活動を通して、職業教育の特色を打ち出した。</p>	
	【1-3】社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	ファッション総合学科の完成年度にあたることから、専攻科のカリキュラムについて、専門的分野の見直しと編成を行った。	
	【1-4】学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	学生に対する周知の手段としては、入学後のガイダンス、院長特別講義で周知を図った。本学院ホームページ、学園新聞（年2回発行）を通して、保護者に対して特色・将来構想等の周知を行った	

	【1-5】各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	卒業進級作品発表展等を通して得られた企業からの意見をベースに、自己点検評価委員会及びカリキュラム会議を通して教育課程の変更を行っている。	
2 学 校 運 営	【2-1】目的等に沿った運営方針が策定されているか	5	各学科において、学科目標・学生指導目標・学生指導計画の策定を行い、教務委員会にて全教職員の意思統一を図った。4月に行われる講師会時で講師に対し発表がなされ、運営方針の伝達が行われた。	
	【2-2】運営方針に沿った事業計画が策定されているか	5	事業計画については、自己点検評価委員会の結果及び事業報告が理事会に諮られ、決議された。決議された結果については、決算と併せて本学院ホームページに情報公開を行った。また、予算書・決算書は、北海道に対し提出をしている。	
	【2-3】運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	5	中心的な運営組織である理事会(年定例6回開催)・常勤理事会(毎月開催)、評議員会(年定例4回開催)、教務委員会(随時開催)は定例開催されている。その他運営組織として委員会制度で運営を行っているが、すべて定例的に開催され効率的な組織運営にあっている。また、運営組織内及び間の縦横の連絡・報告体制、運営組織の記録も整備されている。事業計画内、予算内の執行は、決裁規程に則り、効率的・機能的に進められた。	
	【2-4】人事、給与に関する規程等は整備されているか	5	教職員の人事に関しては、組織機構と共に常勤理事会決定事項であり、給与に関しては理事長決裁事項を以て執行されている。非常勤教職員の人事・給与に関しては、規程に基づき院長決裁を以て執行されている。	
	【2-5】教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	5	教務に係る組織体制は院長を中心に教務委員会で運営されている。学則変更(教育組織の変更含む)、校地・校舎変更、組織・要員編成など学園の重要な運営変更は、教務委員会を経て常勤理事会・理事会に諮られている。財務等に係る組織体制は院長・事務長を中心に各種委員会からの聴取を経て、予算管理委員会で審議され、常勤理事会・理事会に諮られている。教務・財務双方に係るその他の意志決定は、決裁規程、経理規程等に基づき、組織的に適正に処理がなされている。	
	【2-6】業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5	学園として平成18年よりコンプライアンスに関する規程が整備され、組織運営がなされている。また、毎年度管理運営の見直しを行い、適性に運営が行われている。	
	【2-7】教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	5	平成19年度以降、意志決定組織整備、諸規程整備が進められ適正な執行の基、現在に至っている。入学案内等の告知物に教育活動報告を掲載し、情報公開は適切になされている。	
	【2-8】情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	全ての情報が電子システム化され管理されている。但し、人事・給与、経理会計、学費管理、その他個人情報派閉鎖されたシステム化がなされている。それ以外の情報は全教職員の共有情報として電子システム化されており、日常的に更新され業務の効率化が図られている。	

3 教育活動	【3-1】教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	5	学科の改組に伴い、毎年恒例で行われてきたモードコレクション、並びに卒業・進級展示会のあり方の見直しを行った。具体的には、既存学科については卒業・進級展示会の審査会である「Dcreation」の作品発表としてのモードコレクションを行い、「Dcreation×Mode collection」として2日間開催した。これにより、既存学科と新設学科それぞれの教育理念に沿った教育課程の策定がなされ、実施することができた。	
	【3-2】教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5	ファッション総合学科1年次においては、業界で必要とされる知識・技術・技能の基礎部分を学ぶ。2年次はデザイン、テクニク、ビジネスの3コースから1コースを選択し進学する。コース選択のミスマッチを防ぐために、各コースの特徴、教育の目的等を伝えるガイダンスを行った。また、目標とする職種の中には、2年課程での教育では到達レベルが不足する場合もあり、専攻科への進学を促している。各学年・コースに於ける教育到達レベルを計るために、進級・卒業試験展示会では、外部業界関係者による審査を行っている。この展示会を通して、外部業界関係者からの評価を踏まえ、教育到達レベルや学習時間の見直しを行っている。また、専門科目以外の科目では、修業年限に囚われず就職ガイダンスやキャリア教育に関する科目を設定し、社会性を身につける教育を行っている。	
	【3-3】学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	各学科・コース毎で必要とされる専門的な知識と技術を大科目に分類し、小区分の科目と関連性を付け、体系的に編成を行っている。 在校生には年度当初、入学・進級ガイダンス時に担任教員から配布、事前説明をすることで各学科の教育目標や学習スケジュールを把握してもらい意欲を促している。	
	【3-4】キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	院長、学科長、就職担当者などが企業を訪問した際に、人材ニーズについてヒアリングした情報を校内で共有し、自己評価委員会及び教育課程編成委員会で検討され、カリキュラム編成に活かしている。また、卒業生を中心とした業界関係者からの情報をもとに教育目標、育人人材像について教務委員会で検討し、実践的職業教育の視点に立ったカリキュラム策定をしている。	
	【3-5】関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	「【1-2】学校における職業教育の特色」で記載した通り、企業・団体等との連携を行った際に、授業学生アンケートの集計や反省会を行っている。次年度のカリキュラム策定に向けて、企業連携のあり方やカリキュラムの見直しを行っている。	
	【3-6】関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	選択科目として産学連携によるインターンシップを行った。平成28年度は3学科11名が参加した。	
	【3-7】授業評価の実施・評価体制はあるか	4	各科目終了時に授業アンケートを行った。この結果は、教員内で共有され、カリキュラム会議で改善計画の一部として利用される。	

	【3-8】職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	主に、学年末に行われる進級・卒業試験展示会に於いて、試験審査員として外部業界関係者を招き評価を得ている。また、企業と連携してインターンシップを行い、報告書を通して評価を得ている。これらの評価結果を取り纏め、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を開催し、外部関係者からの意見をカリキュラム改善に繋げている。	
	【3-9】成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	5	成績評価の方法はシラバスにより評価基準を明示しており、進級、卒業判定の方法は学生便覧に明示し、入学・進級ガイダンスに於いて、担任教員が説明し在學生に周知している。教科の各単位数は、シラバスに記載されている。	
	【3-10】資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	5	資格についてはカリキュラムに組み込み、各担任教員より案内を行っている。また、検定取得を目指したカリキュラムや、課外授業として検定対策講座を設け、資格取得を促している。	
	【3-11】人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	各学科で用意される科目を受け持つ教員は、カリキュラム会議によって要件が取り纏められ、人材確保が行われている。	
	【3-12】関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	平成28年度は専任9名、非常勤23名の教員で授業を行った。非常勤23名の内、3名は東京など、本州でデザイナー活動を行っており、人材育成目標達成に向けて必要な人材の確保を行っている。	
	【3-13】関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	平成28年度より教職員研修規程を整備し運営を行っている。平成28年度は専攻分野における実務に関する研修が3回、授業及び学生に対する指導力等向上に関する研修が1回、学校運営・教育マネジメント等に関する研修が2回開催され、組織的に指導等が行える環境の整備及び取り組みが行われた。	
	【3-14】職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	平成28年度は、美術館等見学を行う芸術研修会（3カ所）、心理カウンセラーによる教育研修会（3月）、学校運営者対象教育研修大会（8月）、学校評価に関する研修大会（12月）、IT機器システム研修会（2月）、東京研修（3月）を行った。	
4 学 修 成 果	【4-1】就職率の向上が図られているか	4	クラス担任、科目指導教員と就職担当教員が連携して進路、就職先選定から就職活動サポートまでの就職支援に当たっている。必修の就職対策講座として、就職へ向けての基本講座、企業独自の会社説明会、マナー講座等を行い、企業の採用スケジュールに合わせて、模擬面接、就職書類の添削等を実施した。	
	【4-2】資格取得率の向上が図られているか	4	各学科のニーズに合った取得目標資格に対して取得率の向上を目指し、カリキュラムに組み込み学習している。また、通常カリキュラムでは学習時間が不足しているものに関しては、対策講座を別に設け合格率の向上を目指している。	

	【4-3】退学率の低減が図られているか	4	<p>退学の兆候は出欠席に表れることが多く、それらを早期に把握し対応するようにしている。学生の出欠席については科目担当教員が出席簿でチェックするだけでなく、クラス担任教員も毎日把握し、欠席の多い学生については副院長に報告することとしている。担任は、学生との面談を通して状況を把握し、必要に応じて保護者への連絡、面談をして改善につとめている。また、欠席超過の学生に対しては、留年、退学へ追い込まれないよう、授業の遅れを取り戻すための補習を放課後若しくは長期休業期間等に行なっている。これは出席率がよくても学業が不振な学生に対しても同様に行っている。</p> <p>金銭面が理由の退学者は、日常の学費、生活費等をアルバイトで賄っているため、夜遅くまで働き、朝、学校に来られなくなり欠席超過となる。これらの学生に関しては日本学生支援機構、日本政策金融公庫（国の教育ローン）等を紹介し勉学に支障の出ない程度のアパート活動にするよう指導しているが、奨学金を保護者が他目的に散財してしまうケースも出てきている。</p>	
	【4-4】卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	<p>主に、卒業生の就職先企業への訪問、または、企業担当者の来校時に、卒業生評価に関する情報収集を行い、情報は校内で共有している。同窓会開催時（札幌地区、東京地区）には、卒業生の活躍状況を確認するとともに、卒業生同士の情報交換、交流を促す機会にもなっている。また、卒業生が直接来校し情報交換が出来る場合もある。卒業生の活動状況については、学内掲示、入学案内書やホームページ内で紹介し、学内外へ告知している。</p> <p>在学生の社会的な活躍、評価については、学外コンテスト入選、受賞状況や産学連携協同事業による実践的カリキュラムや、学内展示会での業界関係者による審査評価等で把握するよう努めている。</p>	
	【4-5】卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	<p>来校した卒業生からの情報聴取によって卒業後のキャリア形成への効果を把握しカリキュラムの見直しを行っている。</p>	
5 学 生 支 援	【5-1】進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	<p>就職・進学相談に関しては、クラス担任教員、就職担当が連携する体制をとっている。就職対策講座という科目としてカリキュラムに定め就職に対する早期意識付けを行っている。就職活動の実務ガイダンス、就職活動ガイドブック等の配布、模擬面接の実施、証明写真撮影も校内で実施している。また、企業説明会を企業の実務担当者を招いて校内で開催し、業界、職業理解のための機会としている。学生の個別指導に関しては、個々に受験スケジュール管理を行い、希望職種、企業に応じて、提出作品制作指導、模擬面接など受験対策を行い、希望の職種、企業への就職を可能にするよう支援している。進学指導に関しては、クラス担任、進学先クラス担任との連携により日頃からの働きかけを行っている。また、学期末等には院長からの訓示の中で進学を促している。</p>	

【5-2】学生相談に関する体制は整備されているか	4	学生相談は基本的にはクラス担任教員が行っている。相談内容は、今後の進路や家庭のこと精神的なこと友人のこと等多岐に及ぶ。	
【5-3】学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	5	経済的支援が必要な在学学生に対しては、日本学生支援機構、日本政策金融公庫などの公的制度を活用するほか、本校提携教育ローンを用意し、支援体制を整備している。学費の分割納入・延期納等経済的な支援については、事務局が窓口となり、入学前後に個別に説明会も実施している。	
【5-4】学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	学校保健法に従い、毎年度4月～5月に定期健康診断を実施している。診断は札幌複十字総合健診センターに委託し、結果は在学学生に配付している。日常の健康相談はクラス担任教員が対応している。	
【5-5】課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	在学学生の課外活動の場として、本学院施設や機材の使用を認め支援している。活動は原則として授業時間外で行われ、学業に支障がでないよう各学科担当教員が指導している。	
【5-6】学生の生活環境への支援は行われているか	4	学内の生活環境に関しては、在学学生からの要望等があった場合、学生委員会が中心となり対策を協議している。学外では、提携している業者が運営している学生会館があり、指定学生寮としての案内を行い、希望者が利用している。業者または在学学生からの申し出や相談があった場合には、解決策を協議している。	
【5-7】保護者と適切に連携しているか	4	毎年度入学式当日に保護者説明会を開催し学生便覧により学院生活での決まり事等を一通り説明している。また、学期末には、出欠席状況や成績・単位取得状況を保護者宛てに送付し、特に問題のある学生には、クラス担任教員からの追記を添えている。その他、修学状況等において必要がある場合はクラス担任教員が保護者に電話または文書で連絡を取り、場合によっては3者面談を行っている。	
【5-8】卒業生への支援体制はあるか	4	就職後の悩み相談や転職等の相談に応じる等卒業後もバックアップする体制をとっている。また、起業した卒業生の活動支援として本学院施設や機材等の貸出、ホームページ等での告知も行っている。在学学生は卒業と同時に同窓会正会員となり会長および副会長、運営委員、役員を卒業生が勤め事務局は学内に置いている。毎年度、役員総会を行い、札幌支部・東京支部での同窓会の開催等が主な行事である。また、卒業生向けホームページを開設し、情報交換の場として役立たせている。	
【5-9】社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	社会人、大学生を主にターゲットにした夜間科を設置し、働きながら、または、他分野を学びながらファッションに関する基本知識を修得できる学科を開設している。また、希望する科目のみを修得できる聴講生制度も設け、様々な社会のニーズに対応できる体制づくりを心掛けている。	
【5-10】高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	5	高等学校の要請を受けて、各分野に係る専門学校(有志校)による職業説明会を北海道内高等学校対象に実施している。その他、家政・生活・服飾コース等を有する高等学校では出前授業に合わせキャリア教育を内容とする授業を行っている。	

6 教育環境	【6-1】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	毎年カリキュラムの見直しが行われるのと合わせ、多様化する業界のニーズに対応できるよう施設設備の検討、並びに、備品のチェック、補充を行い、必要な教材を整備している。	
	【6-2】学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	学外学習については、美術館見学、ミュージカル鑑賞、ファッションセミナー等への参加を全学科に対して行っている。平成28年度は、ファッション総合学科全員を対象に東京研修を実施し、ファッション展示会や東京コレクション等の見学を行った。 インターンシップについては、希望者に対して行っており、クラス担任教員と就職担当者が連携して実施を進めている。海外研修については、平成28年度は人数不足により非開講であった。なお、海外研修は、毎年冬季休業期間を利用する内容で募集をかけ、旅行遂行最低人数以上の申し込みがあった場合に実施されている。	
	【6-3】防災に対する体制は整備されているか	5	年に1度防災訓練を実施し、災害時の行動や対処に関して学生への案内を行っている。本棚等の備品には地震対策を行い、一部学科の授業で使用する薬品・ガス等については学科内で取り扱いや管理の方法を定めている。また、在学生は、全員、学生傷害保険に加入しており、教育活動中における不慮の事故へ備えている。	
7 学生募集と受入	【7-1】学生募集活動は、適正に行われているか	4	平成28年度は、栄美通信、ダイヤ書房、高校生進路支援の会、マイナビ等の進学相談会に参加した。学生募集活動は、本学院が加盟している北海道私立専修学校各種学校連合会の定めるルール及び学則を基に、募集開始時期、募集内容を遵守し、適正に行われている。	
	【7-2】学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか	4	入学案内や本学院ホームページ、進学相談会時に配布される資料などで専門分野への就職状況や学外コンテストの入賞実績、資格合格率の実績、産学連携等による学外活動状況の報告などを公表し、本学院が行う教育成果を伝えた。	
	【7-3】学納金は妥当なものとなっているか	4	平成28年度の学納金は、予算管理委員会を通して予算を策定する際に見直しが図られ、理事会において審議され妥当なものとして決議されている。	
8 財務	【8-1】中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	平成24年度から平成26年度において、築後60年を経て老朽化していた校舎の学園所有建物への移転実施、移転に伴う改修工事、新校舎の教育環境整備、既設旧校舎の解体・整地に係る特別支出が発生したことから財務状況は繰越資金の大幅な減少となった。	
	【8-2】予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	平成28年度の予算・収支計画は、学園予算編成基本方針に則り策定されている。財務状況の安定的な維持・向上を図る収支計画を基本として作成されている。なお、予算は学園予算管理委員会の議を経て編成されており、最終的に3月の理事会に諮られ決定される。これらの計画に基づき、平成28年度の計画は有効に推移している。	

	【8-3】財務について会計監査が適正に行われているか	4	会計監査については、監事監査・会計監査人監査・内部監査の三様監査を実施している。監事監査は、計算書類を主に、業務面及び財産状況に関しての監査を実施している。監事は全ての理事会に出席し、定期訪問実査も行き、結果を踏まえて業務改善等の指摘や指導にあたっている。監事は、監査法人の監査の際にも出席、講評するなど監査法人や内部監査室と連携をおこなっている。当該年度決算に関わる最終監査に立会い、5月に「監査報告書」を作成し、決算が決議される理事会に監査報告を行っている。会計監査人監査は、会計の適法性・適正性の観点から監査を実施している。 内部監査は、「内部監査規程」を設け、同規程第18条に基づき監事と連携して年毎の「監査計画書」を策定し、組織の内部統制面及び諸規程の遵守状況を主に監査を実施している。	
	【8-4】財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務情報等の公開については、本学院ホームページにおいて各年度事業概要報告、計算書類、自己分析を含む財務諸表が開示されている。	
9 法令等の 遵守	【9-1】法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	高等教育を目的とする社会的機関としての責務を果たすため、法令遵守や必要な組織倫理に関し「寄附行為」「学則」を基本規則として、教育、学務、管理運営の諸分野を体系的に整理した規程を制定している。適正な運営に関しては、「就業規則」「管理運営規程」「決裁規程」「内部監査規程」「コンプライアンス管理規定」「キャンパスハラスメントの防止等に関する規程」「公益通報者の保護に関する規程」「情報セキュリティ運用基本規程」「個人情報保護規程」「情報開示に関する規程」「補助金等取扱規程」「工事契約に関する規程」等が制定されており、法令等遵守と適正な運営が図られている。	
	【9-2】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	個人情報の保護については、「個人情報保護規程」「学生に関する個人情報の取扱規程」「情報セキュリティ運用基本規程」を制定し、個人情報の保護に努めている。個人情報は、すべて電子媒体化されているため、電子媒体のセキュリティ対策には万全を期している。	
	【9-3】自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	5	平成29年度事業報告書の作成に向けて、カリキュラム会議、教育課程編成委員会を行い、カリキュラムの点検を行っている。	
	【9-4】自己評価結果を公開しているか	5	平成28年度自己評価報告書として本学ホームページで公開している。また、9月と2月の2回学園新聞が発刊され、財務諸表が公開されている。	
10 社会貢献	【10-1】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	5	平成28年度は、児童・老人福祉施設訪問活動、地域行事の裏参道まつり参加活動、中学校の職場体験授業の受け入れ、高等学校の出前授業・職業ガイダンス参加等に参加した。	
	【10-2】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	平成28年度は、7月に全学生町内清掃、12月のクリスマスシーズンに月形雪の聖母園、養護老人ホーム藤の園施設訪問を行った。	
	【10-3】地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	5	平成28年度は、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の高校生を対象とした体験授業出前講座（通年開催）及び中学生を対象とした夏休み体験実習（8月2日開催）に参画し、積極的に公開講座・教育訓練の受託を行った。	